

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
 A：十分達成できている
 B：おおむね達成できている
 C：やや不十分である
 D：不十分である

学校名	佐賀県立武雄青陵中学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、体育大会や文化発表会の中止など様々な学校行事に影響が出た。そうした中でオンラインによる講演会などの新たな取組を取り入れながら、教育目標の達成のため努力した。新型コロナウイルス感染症による臨時休業のため例年より少ない授業時数ではあったが、工夫を凝らした授業を行い、生徒の学習内容の定着につなげた。また、いじめへの対応については、教育相談等を活用し、いじめの早期発見に努め、それぞれの事案に対し適切に対応することができた。一方、新学習指導要領の研究については、十分な時間確保が難しく計画通りに進めることができないといった課題もあった。中高一貫教育校として、武雄高等学校と密接な連携を図りながら、高い志をもち自ら学びへと向かう姿勢を有する生徒を育成することを続けていきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	高い志と未来を切り拓く力をもち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	(1) 学力の向上と「高い志」の育成 (2) 生徒指導の充実 (3) 中高の交流の促進 (4) 保護者・地域との連携 (5) 教職員の「働き方改革」の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○「基礎学力」の定着とともに「学び方の基礎基本」を身につけさせる。 ○生徒が自ら考え、主体的な学習ができるようにする。	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○学校評価アンケートにおいて、「授業内容がわかる」と回答した生徒が85%以上 ○学校評価アンケートにおいて、「授業が楽しい」と回答した生徒が85%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、年に2回、校内研修等により取り組みの促進を図る。 ・個別学習、グループワーク、アクティブラーニング等を通じて、多様な生徒の能力を引き出す努力をする。 ・思考力、判断力、表現力を育む発問や課題を取り入れる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・「ふれあい道徳」を通じて生徒・保護者の人権意識を高めるとともに、教職員の授業づくりに関する校内研修等を実施する。	B	・各学年で道徳の授業づくりを検討し、授業充実に努めた。 ・学びの内容を保護者に共有することで、人権意識の向上に努めた。 ・コロナ禍のため、ふれあい道徳の内容を縮小したことがあり、生徒の学校評価アンケートでの肯定的な評価は86%と目標に届かなかった。	B	・心の教育について学校が組織として協力して取り組んでいるようだ。 ・一人一人の子どもの可能性を信じ、「学びと成長」のために出来ることを行ってほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価アンケートにおいて、いじめ防止等について組織的対応ができていないと回答する職員が100%	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの内容周知と見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	A	・学校評価アンケートにおいて、いじめ防止等について組織的対応ができていないと回答する職員が100%(88.5%)ではなかったが、学年を中心に認知 認知の対応はスムーズにできた。 ・アンケートや教育相談等から、いじめを早期に発見することができた。	A	・いじめ事案に対して、素早く積極的な対応がされていると思う。 ・生徒の声をキャッチする取組を継続してほしい。
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○学校評価アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした中学3年生が80%以上	・中高交流の体験学習や、教科横断的な授業を通じて、目標設定の手助けをする。 ・さまざまな講演等を通じて、ハイレベルな学問にふれる機会をつくる。	B	・オンラインによる講演会を多く開催した。大学生や各方面で活躍されている方の話を聞くことで、進路意識を高めることができた。 ・探究活動において、進路意識を高めることができた。	B	・生徒や保護者からのアンケートでの評価が低いことが気になる。 ・「学校の新しい生活様式」の定着とともに、子どもや職員のストレスへの配慮が必要となる。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・食育だよりの発行により啓発を図る。	A	・SDノートや教育相談等により規則正しい生活の定着への指導できた。 ・味噌づくり講座や定期的「食育だよりの発行し、食の大切さや健康についての意識を高めることができ、学校評価アンケートで、「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合が99%を超えることができた。	A	・家庭と学校が協力して食育に取り組んでいることは、広域から生徒が通学していることを考えると、大切なことだと思う。 ・感染対策について、「過度に恐れず、正しく恐れる」ことが大切だと思う。
	○安全に関する資質・能力の育成	○生徒の防災意識を高めるとともに、自然災害に対する具体的な備えを行う。	・PTAと連携をとりながら、生徒、教職員分の備蓄食糧の整備、宿泊に備えての毛布、マット等の準備を進める。 ・毎月安全点検を行う。 ・学校周辺の危険個所の把握と情報を共有する。	A	・PTAの協力を得て、非常食、備蓄水、防寒具を準備できた。 ・各担当による担当箇所の安全点検を毎月確実に実施できた。	A	・子どもが安心して学校に通うことができる環境づくりとして、通学路の点検、保護者や外部機関と連携しての交通安全教育の実施について、継続した取組が必要である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定で、職員に勤務時間短縮の意識向上を促す。 ・部活動休養日を設定し、遵守する。	A	・昨年度より職員の時間外労働時間が削減でき、月平均が29時間程度となり、上限を遵守することができた。 ・部活動休養日については、どの部も概ね休日1日、平日1日の休養日を設定し、実施することが出来た。	A	・教職員の多忙化を排して生徒と向き合う時間を確保してほしい。
	○保護者・地域との連携強化	○ICTの活用による業務改善 ○開かれた学校づくり	・メール配信機能の充実による保護者との連携の強化を図る。 ・学校ホームページの活用等による情報提供を行い、広報活動を充実したものにす。	B	・メール配信については、適宜、必要な情報を保護者等へ発信することができた。 ・年間通して学校で実施している行事等をHPで発信できた。しかし、コロナ禍のため中止となった学校行事があり、発信回数が減少した。	B	・「学校運営協議会」や「地域コーディネーター」の役割を再認識し、教員の働き方改革や学校の質の向上のためにも活用してほしい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○新学習指導要領への対応	○新学習指導要領の研究	○全教職員が新学習指導要領の内容を理解し、把握する。	・中高連携の実践の中で、新学習指導要領での6年間の指導計画を作成する。 ・全教職員が年2回以上公開授業を行う。
○生徒が行きたいと思う学校づくり	○魅力ある学校行事等の企画・実践	○学校評価アンケートにおいて、「充実した学校生活が送れた」と答える生徒が80%以上	・職員間の情報共有、共通理解を確実に進行。 ・学校での生徒の居場所づくりをしっかりと行う。	A	・限られた時間の中で、生徒の人間関係形成の一助となる学校行事を工夫して実施できた。 ・不登校傾向の生徒に対してはオンライン授業やカウンセリング等を通してできる限りの配慮を行った。	A	・現在行っている取組を今後も継続して行ってほしい。 ・子ども達が「明日も学校に行きたい」と思える場所にするために、まず、教員が生き生きと教育活動に取り組んでほしい。
○制服の検討 ○校則の見直し	○第3の制服の検討 ○校則の見直しや細部の共通理解が必要な事項について、生徒・保護者の意見を聞く。	○武雄高校との検討会を進める。 ○生徒会を中心に、生徒自身が考える場を設ける。	・本校独自、武雄高校との合同の制服検討委員会を複数回開催する。 ・生徒・保護者の意見を積極的に取り入れる。	B	・第3の制服は、高校との検討を重ねる年度から導入することになった。ただ、保護者への説明が不十分であったとの指摘を受けた。 ・昨年度に見直した校則について、今年度は特に変更はなかった。現在、生徒会を中心に「青陵モデル」の作成を行っている。	B	・多様化への対応について大変だと思うが、保護者等へ十分な説明を行いながら、検討及び見直しを進めてほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、学校運営に様々な制約があった1年であった。体育大会等の大きな行事を年度の後半に計画したが、新型コロナウイルス感染症が収まらず、合唱コンクールなどいくつかの行事を中止せざるを得なかった。そうした中でも、体育大会や文化発表会、修学旅行については、時期を変更したり内容を縮小したりしたものの生徒と教職員がともにアイデアを出し合い無事開催することができた。また、新型コロナウイルスの感染対策についても学校を挙げて取り組み、学校閉鎖や学級閉鎖をせずに年度を終えることができた。次年度も様々な制約の中での教育活動になると考えられるが、これまでの経験から学んだことを踏まえながら、高い志を持って挑戦していきたい
--------------------	---